

教育委員会

平成21年度当初予算のポイント

1 予算編成にあたっての基本的な考え方

「県民しあわせプラン 第二次戦略計画」及び「三重県教育振興ビジョン 第四次推進計画」を引き続き推進するため、学校教育の充実やスポーツの振興を中心に、目標の達成に向けて全力で取り組んでいきます。

- (1) 学校教育については、少人数教育を着実に推進するとともに、社会のニーズに対応した教育を実践し、子どもたちの学力・人間力を高めます。特別支援教育についても、障がいのある子どもたち一人ひとりが能力や可能性を伸ばし将来自立していけるよう、早期からの一貫した支援体制と学習環境の整備を推進します。

外国人児童生徒教育の充実や学校非公式サイトにおけるいじめ問題への対応、新型インフルエンザ対策など、新たな教育課題についても取組を進めます。

また、「第33回全国高等学校総合文化祭」を本県で開催し、高校生の文化力を三重県から発信します。

- (2) スポーツについては、誰もが身近にスポーツに親しむことができる環境づくりを進めるとともに、引き続き競技力の向上に取り組み、国内外で活躍できる選手を育成します。また、「2009年第29回世界新体操選手権」が世界の体操界の歴史に残る大会となるよう、市町、関係団体、ボランティア等と連携して開催します。

2 主な重点項目

- (1) (新)次期教育振興ビジョン(仮称)策定事業 予算額 419 千円
現行の教育振興ビジョンの計画期間が平成22年度で終了することから、学校教育を中心とした教育に関する基本的な計画として「次期教育振興ビジョン(仮称)」の策定に着手します。

- (2) 少人数教育推進事業【重点事業 元気1】 予算額 1,364,674 千円
教員の配置拡充(定数43人、非常勤235人、548,749千円)
小中学校において、各学校の実情に応じ、少人数教育などの拡大をはかるため、教員の配置を拡充(小学校:30人 35人、中学校:4人 8人)し、きめ細かな少人数教育をより一層推進します。
小学校1、2年生での30人学級の継続(定数122人、523,502千円)
小学校1、2年生での30人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を継続して実施します。
中学校での35人学級の弾力的実施(定数56人、非常勤30人、292,423千円)
中学校1年生での35人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を引き続き実施するとともに、各学校の実情に応じて、2年生あるいは3年生に弾力的に振り替えられる制度を継続します。

(3) (新) 社会の変化やニーズに的確に対応する教育の推進【重点事業 元気1】

予算額 45,727 千円

新しい小・中学校学習指導要領では、小学校における外国語教育の充実や中学校における武道の必修化が盛り込まれており、これらに対応するため具体的な取組を進めていきます。また、介護・福祉サービスの多様化や高度化、県内の医師不足など、社会のニーズに対応した教育を推進します。

(新) 小学校外国語活動授業実践研修事業 2,063 千円

平成21年度からの新学習指導要領の移行措置実施に伴い、小学校外国語活動の実践指導力を向上させるための研修を実施します。

(新) 小学校外国語活動の教材の効果的な活用推進事業 8,000 千円

小学校外国語活動における「英語ノート」等の教材を用いた効果的な指導や評価のあり方等について実践研究を行います。

(一部新) 地域連携学校スポーツ支援事業【重点事業 元気1】 30,786 千円

運動部活動の活性化や中学校の保健体育科における武道の必修化に向けた課題と、生徒のスポーツに関するニーズの多様化に対応するため、地域の指導者の活用を推進するとともに、指導者の資質向上のための研修会を開催します。また、学校間や地域との連携による新たな運動部活動の運営方法について検討を行います。

(新) 医学部進学向上対策支援事業 1,151 千円

医学部への進学を希望する生徒を対象とした進学セミナーや、医学に関する講義、講演会等を開催し、生徒の学力向上をはかるとともに県内の医師不足解消の一助とします。

(新) 高度福祉系人材育成支援事業 3,727 千円

近年の介護・福祉サービスの多様化・高度化に伴い、福祉系人材の確保と資質向上が求められていることから、福祉科等の生徒が将来これらのニーズに対応できる人材となるよう、老人福祉施設等においてより実践的な介護実習を行います。

(4) 第33回全国高等学校総合文化祭(三重大会)開催事業 予算額 178,628 千円

全国及び海外の高校生に芸術文化活動の成果発表の場を提供し、高校生の文化力を全国に向けて発信する舞台として、「第33回全国高等学校総合文化祭(三重大会)」(7月29日～8月2日)を開催します。

(5) (一部新) 新しい高等学校の整備充実 予算額 558,345 千円

平成21年4月に開校する「伊賀白鳳高等学校」について、新しい教育課程に沿って、施設、備品を整備します。

また、平成22年4月の宮川高校と相可高校の統合を機に、生徒の多様なニーズに対応できる総合高校として一層の魅力化をはかるとともに、地域の活性化に寄与できる学校となるよう、調査・研究、情報発信、施設整備を行います。

伊賀白鳳高校施設整備事業 457,887 千円

伊賀白鳳高校設備充実事業 85,747 千円

(新) 宮川高校・相可高校の統合に向けた「魅力ある学校づくり」事業 1,761 千円

(新) 宮川高校・相可高校統合新実習棟建築設計事業 12,950 千円

- (6) (一部新) 特別支援教育における就労・自立支援と施設整備 予算額 343,964 千円
 特別支援学校の生徒が将来自立して社会に参画していけるよう、新しい職業訓練システムや職業体験活動などを通じて早期から勤労観・職業観を育成し、就業率の向上をはかります。

また、特別支援学校における在籍者数の増加、学校施設の狭隘化などの課題に対応するため、桑員地域の新しい特別支援学校及び杉の子特別支援学校高等部(知的障がい)の整備を進めます。

障がい児者就労・自立支援事業【重点事業 元気1】	5,783 千円
(新)特別支援学校職業体験活動支援事業	2,801 千円
桑員地域特別支援学校整備事業	106,950 千円
杉の子特別支援学校高等部(知的障がい)整備事業	185,130 千円
(新)特別支援学校学習環境等基盤整備事業	43,300 千円

- (7) (一部新) 外国人児童生徒教育の充実 予算額 17,094 千円

外国人児童生徒教育支援事業【舞台づくり 絆1】 15,793 千円

外国人児童生徒が日本語や学校での生活習慣を身につけられるよう、巡回相談員10名を学校へ派遣するとともに、市町が設置する「初期適応指導教室」(日本語の初期指導等を一定期間集中して行う機関)への支援などに取り組みます。また、進路ガイダンスを開催し、子どもたちの進学に向けた取組を推進します。

(新)外国人児童生徒教育学校間ネットワーク整備事業 1,301 千円

外国人児童生徒の編・転入学や進学後の指導が適切に行われるよう、三重県と姉妹提携を結んでいるサンパウロ州の教育局や県内のブラジル人学校等と、学校間での指導事項の引継ぎなど、具体的な連携のあり方について調査研究します。

- (8) (新)学校非公式サイト対策推進事業 予算額 11,147 千円

「学校非公式サイト」の検索、監視、削除代行等のサービスを提供している民間企業と提携して、すべての公立中学校及び高等学校の検索、監視、削除等を行うとともに、具体的事案に対する対策会議等を実施して学校への支援を推進します。

- (9) (新)教育委員会新型インフルエンザ対策事業【重点事業 暮らし12】

予算額 - 千円

(3,670 千円 H20 年度2月補正含みベース)

新型インフルエンザの予防と感染拡大防止のため、公立小中学校及び県立学校のすべての児童生徒・保護者への啓発や教職員研修を行います。(リーフレットの配布: 22万人分)

- (10) (一部新) 美し国の文化財活用 予算額 76,212 千円

活かそう美し国の文化財事業 73,880 千円

「美し国三重」の貴重な地域資源である文化財について、市町による文化財を活かしたまちづくりのマスタープランや所有者、地域住民等による文化財の活用の提案と、文化財の修復等を対にして認証・支援し、文化財の活用による人づくり・まちづくりを推進します。

(新)伊勢路を結ぶ石造物調査事業 2,332 千円

熊野古道伊勢路のうち、世界遺産未登録の街道沿線の石造物調査を行い、登録部分と未登録部分を結ぶことにより地域の歴史的資産の価値を高めます。

- (11)世界新体操選手権大会開催事業 予算額 526,155 千円
「2009年第29回世界新体操選手権」(9月8日～13日)が世界の体操界の歴史に残る素晴らしい大会となるよう、円滑な競技運営体制、選手等の宿泊・送迎などの受入体制を整備するとともに、市町、関係団体、ボランティア等と連携して国際大会にふさわしい運営を行います。また、この大会を機に三重県及び伊勢志摩地域を広く内外にPRします。

3 事業の見直し

厳しい財政状況の中、効果的に施策を推進するため、すべての事業について成果の確認と検証を行い、目的を達成した事業の廃止、休止やリフォーム、さらには、全般にわたって経費の節減をはかりました。

	事業本数	事業費
廃止事業	12本	47,401千円
休止事業	0本	0千円
リフォーム事業	2本	7,044千円
合計	14本	40,357千円

緊急経済雇用対策(主なもの)

- (1) インターンシップ等受入事業所拡大・充実緊急雇用創出事業 当初予算額 6,075 千円
中学校、高等学校における職場体験やインターンシップの拡大・充実をはかるため、県内事業所の受入等に関する情報を調査集計してデータベース化を行うとともに、各学校がホームページから閲覧・申込できるシステムを構築します。
- (2) 埋蔵文化財資料・遺物再整理緊急雇用創出事業 当初予算額 9,322 千円
埋蔵文化財資料の公開・活用のため、出土遺物等の再整理、実測、写真撮影を行い、デジタルデータ化を進めます。
- (3) 高等学校等修学奨学金の制度改善
経済的理由により修学が困難な生徒を支援するため、償還期間の延長(修学費：10年 12年、修学支援費：5年 12年)や返還猶予事由への「失職」の追加など、より利用しやすくなるよう制度を改善し、その活用を促進します。

(新) 次期教育振興ビジョン (仮称) 策定事業

当初予算主要事業 教育委員会 3頁
教育総務室 (224-2946)
【予算額 合計 419千円】

現行の「三重県教育振興ビジョン」が平成22年度で終了

- ※「三重県教育振興ビジョン」…平成22年度までの三重の教育のあるべき姿(平成11年3月策定)
 - 第一次推進計画 (平成11年度～平成13年度)
 - 第二次推進計画 (平成14年度～平成16年度)
 - 第三次推進計画 (平成17年度～平成18年度)
 - 第四次推進計画 (平成19年度～平成22年度)

教育基本法の改正 (H18.12)

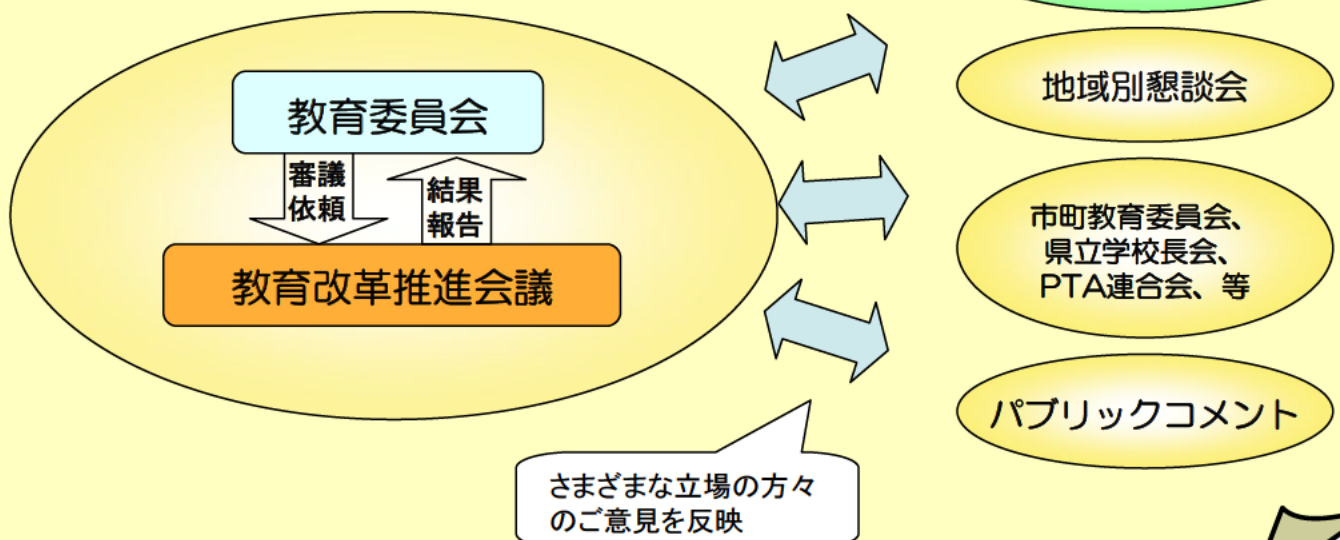
- ・教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進をはかるため、政府が基本的な計画を定める。(第17条第1項)
- ・地方公共団体においても国の計画を参考に、地域の実情に応じた教育の振興のための基本的な計画を定める。(第17条第2項)

国の「教育振興基本計画」(H20.7.1)

- ※10年先を見通した教育の目指すべき姿
- ※今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

「次期教育振興ビジョン(仮称)」の策定に着手(H21～H22)

- 学校教育を中心とした教育に関する基本的な計画とする
- 「生きる力」を育むため、重要課題及び今日的課題を検討する
- 国の「教育振興基本計画」を参考とする
- 「県民しあわせプラン」と整合をはかる



少人数教育推進事業

当初予算主要事業 教育委員会 3頁
 人材政策室(224-2958)
 【予算額 合計1,364,674千円】

「少人数教育推進事業」の歩み

目 標	実施年度	実 施 内 容
基本的な生活習慣や基礎・基本の学力の定着	平成15年度	小学校1年生における30人学級(下限25人)を実施
	平成16年度	小学校1、2年生における30人学級(下限25人)を実施
確かな学力の定着と生きる力の育成	平成17年度	中学校1年生における35人学級(下限25人)を実施
少人数教育の充実	平成18年度～平成20年度	教員の配置拡充、中学校35人学級の弾力的実施

少人数教育をより一層充実させるため

○教員の配置拡充【定数34人→43人】

○小学校1、2年生での30人学級(下限25人)の継続実施

○中学校35人学級(下限25人)の弾力的実施の継続実施

- ① 教員の配置拡充 (定数43人、非常勤235人、548,749千円)
 小中学校において、各学校の実情に応じ、少人数授業などの拡大をはかるため、教員の配置を拡充(小学校:30人→35人、中学校:4人→8人)し、きめ細かな少人数教育をより一層推進します。
- ② 小学校1、2年生での30人学級の継続 (定数122人、523,502千円)
 小学校1、2年生での30人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を継続して実施します。
- ③ 中学校での35人学級の弾力的実施の継続 (定数56人、非常勤30人、292,423千円)
 中学校1年生での35人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を引き続き実施するとともに、各学校の実情に応じて、2年生あるいは3年生に弾力的に振り替えられる制度を継続します。

【 目 的 】

生活面

- ・新しい環境に早くとけ込み、楽しく学校へ行ける。
- ・基本的な生活習慣が身につく、生活態度が落ち着く。
- ・児童生徒への声かけや気配りがよりきめ細かくできる。
- ・児童生徒や保護者と話す機会が多くなり、児童生徒に対する理解が深まる。

学習面

- ・自ら学習する習慣がより身につく。
- ・細かいところまで丁寧に関わってもらえる。
- ・基礎・基本の学力の定着がはかれる。
- ・授業が落ち着き、児童生徒の一人ひとりにいきとどいた指導ができる。

(新)社会の変化やニーズに的確に対応する教育の推進

当初予算主要事業 教育委員会 4, 7, 12, 13頁
【予算額 合計45, 727千円】

子どもたちが将来自立した一人の人間としてたくましく生きていけるよう、社会の激しい変化や多様なニーズに的確に対応する教育を推進します。

新しい学習指導要領への円滑な移行

【教育内容の主な改善事項】

外国語教育の充実

- 小学校に外国語活動を導入、聞くこと、話すことを中心に指導(小5・6)

伝統や文化に関する教育の充実

- 武道を必修化(保体/中1・2)

社会のニーズに対応した教育の推進

- 医学を志す生徒の育成、県内の医師不足への対応
- 介護・福祉サービスの多様化・高度化に対応した人材の育成

外国語教育の充実

(新)小学校外国語活動授業実践研修事業

研修企画・支援室(226-3428)

【予算額 2,063千円】

小学校外国語活動における授業の実践力向上のため、教職員を対象とした研修を実施する。

- 大学等の教員による講義
- 実践事例紹介及び教材・教具を活用した実践発表
- 少人数によるグループ別演習
- 国や他事業で開発された教材・教具の紹介

(新)小学校外国語活動の教材の効果的な活用推進事業

小中学校教育室(224-2963)

【予算額 8,000千円】

小学校外国語活動の円滑な導入をはかるため、実践研究を行う。

- 「英語ノート」等の教材の効果的な活用方法の研究
- 外国語活動における評価の在り方の研究 等

武道の必修化

(一部新)地域連携学校スポーツ支援事業

スポーツ振興室(224-2973)

【予算額 30,786千円】

中学校保健体育科における武道の授業や、中学校及び高等学校の運動部活動に地域のスポーツ人材を活用し指導の充実をはかる。

- 中学校保健体育科の授業(武道)及び中学校・高等学校の運動部活動への地域のスポーツ人材の活用
- 指導者の資質向上に向けた研修会の開催
- 学校間及び地域と連携した新たな取組等による運動部活動の活性化

医学、介護・福祉系の進路支援

(新)医学部進学向上対策支援事業

高校教育室(224-3002)

【予算額1,151千円】

医学部への進学を希望する生徒を対象とした進学セミナーや、医学に関する講義、講演会等を開催し、生徒の学力向上をはかるとともに県内の医師不足解消の一助とする。

- 医学部進学を目指す生徒を対象とした進学セミナーの実施
- 医学に関する講義や講演会を実施する高等学校への支援
- 三重大学医学部等の公開講座やオープンキャンパスへの生徒の参加

(新)高度福祉系人材育成支援事業

高校教育室(224-3002)

【予算額 3,727千円】

近年の介護・福祉サービスの多様化・高度化に伴い、福祉系人材の確保と資質向上が求められていることから、福祉科等の生徒が将来これらのニーズに対応できる人材となるよう、老人福祉施設等においてより実践的な介護実習を行う。

- 福祉関連学科・コース等で学ぶ生徒の老人福祉施設等での実習を支援
- 教科「福祉」等教員が介護福祉に関する最新の知識や技術を習得するよう講習会等への参加を支援

第33回全国高等学校総合文化祭(三重大会)開催事業

当初予算主要事業 教育委員会 7頁
高校教育室(221-0565)
【予算額 178,628千円】

全国高総文祭 みえ'09

ねらい

- ◎ 高校生の芸術文化活動への積極的な参加
- ◎ 三重の文化力を発信できる人材の育成
- ◎ より豊かなこころのふるさと「^{うま}美し国 三重」の創造

大会の概要

■ 大会テーマ

～^{うま}美し国 三重～ この場所、この時に 情熱でつくりあげるわたしたちの舞台

■ 期間

平成21年7月29日(水)～8月2日(日)の5日間

■ 開催部門および会場

総合開会式、パレードのほか、演劇、吹奏楽、美術・工芸など
18の公式部門と、映像、熊野古道など開催県の特色を出した
6つの協賛部門を、津市、伊勢市等、県内各地で開催します。

■ 参加者

全国から参加する高校生を約2万人、一般観覧者を含めた
総参加者を約10万人と見込んでいます。



大会マスコットキャラクター
みえびい

平成21年度の実施

○ 大会運営の充実

～全国からの参加者をもてなす運営～

- ・三重県らしい手づくりの大会運営
- ・運営スタッフ(生徒、教員)の育成強化 等

○ 文化部活動の振興

～高校生による芸術文化活動の裾野の拡大～

- ・三重大会参加への意識向上
- ・各部門の強化充実 等

○ 広報活動の充実

～県内および全国に向けた大会開催のアピール～

- ・広報グッズの製作、配布
- ・イメージソング、キャラクター等の活用 等

主な内容

《開会行事》

- ☆総合開会式(県営サンアリーナ)
- ☆パレード(伊勢神宮内宮周辺)

《公式18部門》 ※県内各地で開催

- | | |
|--------|------------------|
| ●演劇 | ●合唱 |
| ●吹奏楽 | ●器楽・管弦楽 |
| ●日本音楽 | ●吟詠剣詩舞 |
| ●郷土芸能 | ●マーチングバンド・パトワリング |
| ●美術・工芸 | ●書道 |
| ●写真 | ●放送 |
| ●囲碁 | ●将棋 |
| ●弁論 | ●小倉百人一首かるた |
| ●新聞 | ●文芸 |

《協賛部門6》

- | | |
|---------|---------|
| ●茶道 | ●ボランティア |
| ●特別支援学校 | ●映像 |
| ●産業 | ●熊野古道 |

《国際交流》

国(文化庁)の国際交流事業を実施
※中国、ブラジル等の高等学校を招へいし、交流

(一部新)新しい高等学校の整備充実

当初予算主要事業 教育委員会 4,7,14頁
【予算額 合計558,345千円】

県立高等学校再編活性化第三次実施計画(平成20~23年度)に基づき、県立高等学校の適正規模・適正配置を計画的に推進し、魅力ある教育環境を整備していきます。

伊賀地域

工業、農業、商業、福祉の4つの専門学科を有する新しいタイプの総合専門高等学校を新設し、地域の専門教育の拠点として魅力化をはかっていきます。

平成21年4月 伊賀白鳳高等学校の開校

- 設置場所… 伊賀市緑ヶ丘西町 上野工業高等学校校地(一部上野農業高等学校の農場を使用)
- 入学定員… 280人(1学年7学級)
- 学科構成… 機械科、電子機械科、工芸デザイン科、生物資源科、フードシステム科、経営科、ヒューマンサービス科

伊賀白鳳高校施設整備事業

学校施設室(224-2955)
【予算額 457,887千円】

- 施設整備
- ・新実習棟の建築
(プレゼンテーション室、製菓実習室、
介護実習室 等)
- ・管理特別教室棟の増築(職員室、会議室 等)

伊賀白鳳高校設備充実事業

高校教育室(224-3002)
【予算額 85,747千円】

- 備品整備
- ・新しい学校の教育課程に対応した産業教育備品の整備
(製菓実習備品、福祉実習備品 等)

松阪地域

宮川高等学校と相可高等学校は、平成22年度の統合に向け、地域の県立高等学校として魅力化をはかっていきます。

平成22年4月 宮川高等学校と相可高等学校の統合

- 設置場所… 多気郡多気町相可 相可高等学校校地
- 入学定員… 280人(1学年7学級)
- 学科構成… 普通科、生産経済科、環境創造科、食物調理科

(新)宮川高校・相可高校の統合に向けた“魅力ある学校づくり”事業
教育改革室(224-2951)
【予算額 1,761千円】

- 松阪西部から東紀州北部にまたがる広範な地域の「学びの拠点」として、魅力ある学校づくりを推進
- ・新統合高校の新たな「魅力」の創造
- ・中学生、保護者、地域などへの情報発信
- ・宮川・相可両校の生徒の交流

(新)宮川高校・相可高校統合新実習棟建築設計事業

学校施設室(224-2955)
【予算額 12,950千円】

- 施設整備
- ・新実習棟の建築設計
(プレゼンテーション室、調理実習室 等)

(一部新) 特別支援教育における就労・自立支援と施設整備

当初予算主要事業 教育委員会 8, 9, 10, 14頁
【予算額 合計343,964千円】

障がい者の自立をめざして、地域、事業所、教育・福祉労働等関係機関と連携しながら、早期から勤労観、職業観を育成し、進路に対する意識の向上をはかるとともに、体験活動を重視した職業教育の実践を通して、就労につながる効果的な指導法を開発します。

また、「県立特別支援学校整備第一次実施計画」に基づき、杉の子特別支援学校及び桑員地域に設置予定の特別支援学校の整備を進めます。

就労・自立支援

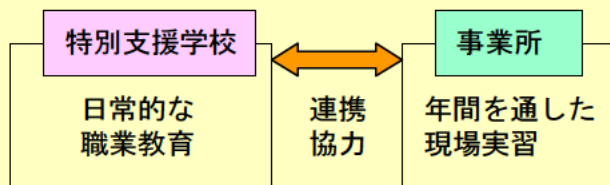
○地域・事業所との連携 ○勤労観・職業観の育成

障がい児者就労・自立支援事業

特別支援教育室(224-2961)
【予算額5,783千円】

- ① 特別支援学校版デュアルシステムの試行
- ② 職場実習による就労支援
- ③ 職場実習先へのジョブコーチの派遣

就労につながる能力開発



(新) 特別支援学校職業体験活動支援事業

特別支援教育室(224-2961)
【予算額2,801千円】

- ① 職業体験活動における実地研修の実施
- ② 職業教育に関する研修会・学習会の開催
- ③ 事業報告会による情報発信

職業体験研活動における実地研修

(例)
空き店舗等の商業施設を活用した
販売体験活動

特別支援学校の整備

○「県立特別支援学校整備第一次実施計画」に基づく整備

桑員地域特別支援学校整備事業

学校施設室(224-2955)
【予算額106,950千円】

- 衛生看護科の設置にかかる桑名高等学校内の改修工事

杉の子特別支援学校高等部（知的障がい）整備事業

学校施設室(224-2955)
【予算額185,130千円】

- 杉の子特別支援学校高等部（知的障がい）設置にかかる石薬師高等学校の改修工事

(新) 特別支援学校学習環境等基盤整備事業

特別支援教育室(224-2961)
【予算額43,300千円】

- 特別支援学校の整備に伴う学習備品等の整備

対象校：県立桑名高等学校、県立石薬師高等学校、
県立杉の子特別支援学校、県立特別支援学校西日野にじ学園

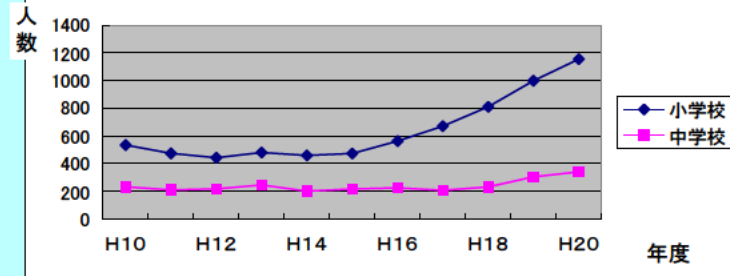
(一部新)外国人児童生徒教育の充実

当初予算主要事業 5頁
小中学校教育室(224-2963)
【予算額 合計17,094千円】

県内の状況

公立小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒の状況

- 在籍数
小学校 1,128人
中学校 358人
1,486人 (平成20年9月1日 現在)
- 日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語が18言語
- 30名を超える在籍校12校(内5校は50名以上)
- 受入校数の増加(初めて受入を経験する学校の増加)
- 外国人児童生徒の編入及び転出入の増加(ブラジル人学校等から)



※ 各年度9月1日時点の調査結果)

解決すべき課題

- 受入体制及び日本語指導体制の整備
- 個に応じた指導の充実
- 効果的かつ継続した指導の充実
- 多文化共生の教育の推進

事業の概要

外国人児童生徒教育支援事業

【予算額15,793千円】

- 巡回相談員の配置 10人(H20年度比1人増)
学校を巡回訪問し日本語指導・適応指導
- 市町への委託事業
来日後間もない子どもたちの初期適応指導
進路ガイダンスの開催等
- 専門員の配置(1名)
電話等による教育相談、翻訳等
- 外国人児童生徒教育担当者会議の開催
受入体制・日本語指導の研修、実践交流会の開催
- 教員向けの「日本語指導の手引き」の作成と配付
日本語指導の基本的な部分から教科指導へつなげる

(新)外国人児童生徒教育学校間ネットワーク整備事業

【予算額1,301千円】

外国人児童生徒教育学校間ネットワーク整備事業推進会議の設置

有識者、生活・文化部国際室担当者、三重県国際交流財団担当者、県内のブラジル人学校の代表者、市町教育委員会代表者 等

- サンパウロ州教育局や県内のブラジル人学校との具体的な連携のあり方についての調査研究
- 学校間での指導事項引継ぎフォームの開発と活用方法の検討
- 日本語の習得状況把握のための基準の検討

教員の加配

- 常勤54人(H20年度比8人増)
- 非常勤31人(H20年度比4人増)

期待する効果

受入体制の整備促進・日本語指導や学校生活への適応指導の充実・多文化共生の教育の充実


平成21年度子どもたちをネット被害から守る取組

子どもたちはインターネットの危険から自分自身を守り、大人は子どもを見守る三重県をめざします。

ネットパトロールの充実

インターネット上の人権侵害・誹謗中傷等の書き込みを調査し、問題解決に向けて関係機関が連携して取り組みます。

ネットいじめ対策

- 
- (1) **【新】学校非公式サイト対策推進事業** 予算額11,147千円
【教育委員会事務局：生徒指導・健康教育室】
- 民間企業と提携して、いじめの温床となる学校非公式サイトの調査および誹謗中傷サイトの削除
 - 県内すべての公立中学校・高等学校を対象に実施
 - 具体的事案に対する対策会議等の実施および学校への支援
 - ネットいじめをはじめ、いじめ問題に関する未然防止・早期対応の取組を推進

人権侵害書き込み調査と啓発

- (2) **【新】インターネット人権モニター事業** 予算額3,179千円
【生活・文化部：人権・同和室、人権センター】
- ネット上の人権侵害に係る書き込みのモニタリング実施及び適正利用の啓発
 - ネットモニターボランティア養成に関する講座、研修会を実施

情報モラル教育の推進

家庭、学校、地域が連携して、ネット上のルールやマナー、危険回避における正しい理解を進めます。

子ども・教職員のネットスキル向上



- (3) **教員ICT活用指導力の向上** 【教育委員会事務局：研修指導室】
- 教職員の情報モラル指導力の向上
- (4) **人権教育の推進** 【教育委員会事務局：人権・同和教育室】
- 開発した教材を活用したネットモラル教育の推進

地域の見守り・ネットワークの充実

- (5) (一部新) **青少年ネット被害・非行防止事業** 予算額1,255千円
【健康福祉部：こども局こども未来室】
- ① **【新】ネット被害防止ボランティア養成**
 - 保護者を中心に、地域のネット被害防止ボランティアを養成
 - ② **ネット被害防止インストラクターステップアップ研修実施**
 - インストラクターのスキル向上
 - ③ **ネット・携帯電話安全安心講座の推進**
 - 学校、地域のネットに関する研修会等への講師派遣

相談体制の充実

家庭、学校、地域からの相談に対して関係部署が連携して取り組み、問題の早期解決をはかります。

子どものいじめ等に関する相談対応



- (6) **相談窓口**
【教育委員会事務局：教育総務室、研修企画・支援室】
- いじめ等の相談受付及び関係部署との連携の推進

サイバー犯罪等の相談対応

- (7) **消費生活相談** 【三重県消費生活センター】
- ネット上のクレジットカード、マルチ商法等のトラブルに関する相談
- (8) **犯罪捜査及び相談対応** 【警察本部】
- 犯罪性のある書き込み等の相談及び対応

三重県

(こども・青少年施策総合推進本部)

【こども・青少年の現状】

- メールや掲示板への誹謗中傷によるネットいじめなどの増加
- 迷惑メールを利用した問題行動の増加
- 出会い系サイトや有害情報に係る犯罪被害の発生
- 携帯電話依存による生活の乱れや不良行為の発生
- 保護者をはじめとする大人の知識や情報の不足

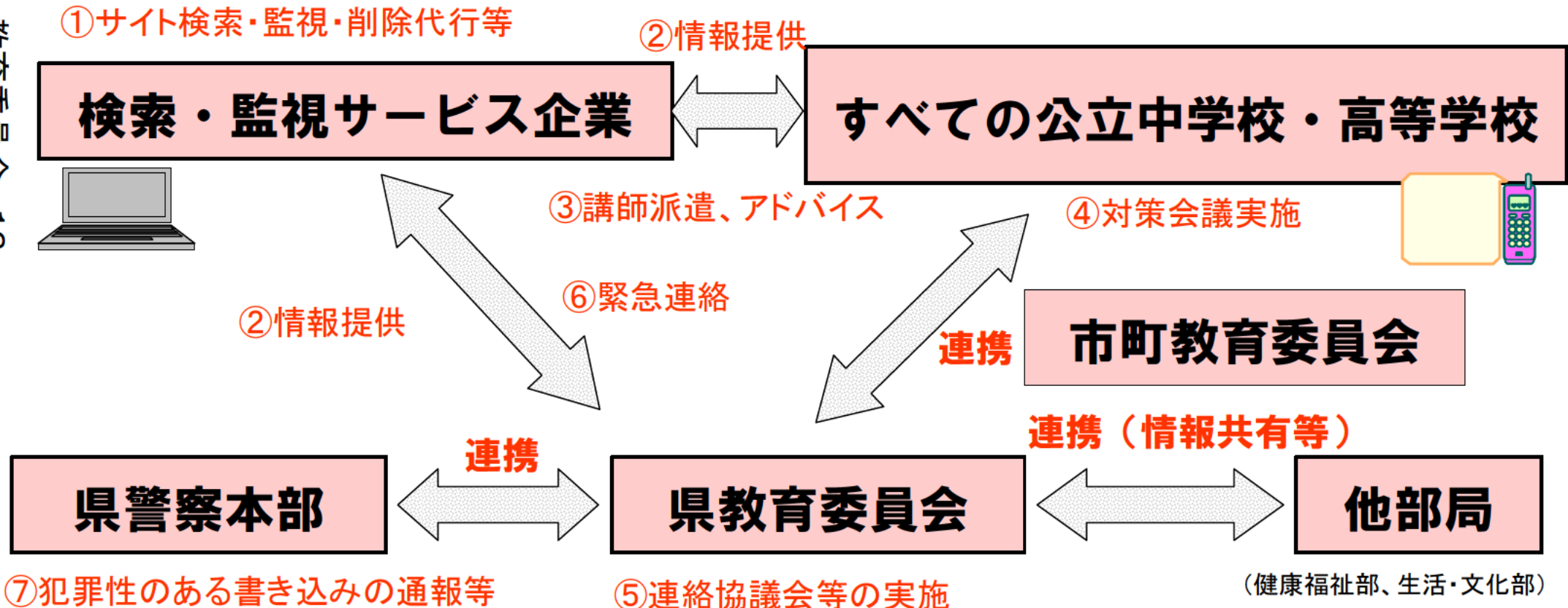
(新) 学校非公式サイト対策推進事業

当初主要事業 教育委員会 11頁
生徒指導・健康教育室(224-2332)
【予算額 合計11,147千円】

【趣旨・目的】

「学校非公式サイト」の検索・監視・削除代行等のサービスを提供している民間企業と提携して、検索・監視・削除などを行うとともに、具体的事案に対する対策会議等を実施し、適切に対応できるよう、学校への支援を進める。

教育委員会 13



新型インフルエンザに対する緊急的な取組 予算額 497,229円 (H20年度2月補正含みベース)

新型インフルエンザの世界的な大流行(パンデミック)が懸念される中、流行時には死亡者が国内で最大64万人、県内においても最大9,400人にのぼる甚大な健康被害が想定されております。

新型インフルエンザ対策については、県民が正しい知識を得るための啓発や、地域の医療体制の整備を行うとともに、行政機能を確保するための対策に取り組めます。

県民、関係者への啓発

○県民啓発(啓発リーフレット)

- ①県内すべての世帯に配布
- ②公立学校のすべての児童生徒、保護者に配布

○衛生対策研修

- ③保健所、医療従事者に対し最新情報、対応策等研修を実施
- ④公立学校教職員を対象とした感染防止、学校対応等に係る研修の実施

○発生の察知

- ⑤家きんに対するサーベイランス検査の実施
- ⑥ウイルス同定機器の整備

行政機能確保

○対策体制整備

- ⑦県における人的被害、具体的な社会機能への影響などの調査の実施及び、具体的な社会的影響シナリオに基づく凶上訓練の実施

○防疫資材の備蓄(マスク等の个人防护具(PPE)、消毒用品等)

- ⑧病院事業庁の機能維持に係る防疫資材の備蓄
- ⑨警察活動維持に係る防疫資材の備蓄

医療体制の整備

○防疫対策資材の備蓄

- ⑩・抗インフルエンザウイルス薬の備蓄
 - ・発生時設置する発熱外来用のPPEの備蓄
 - ・患者支援、調査等の業務に係るPPEの備蓄
- ⑪県立病院における患者受け入に係る防護服、PPE等の整備

○感染者受入入院医療機関の整備

- ⑫医療機関が重篤患者等を受入れるため行う、人工呼吸器、PPE整備への支援

○対策検討会議の実施

- ⑬医療対応について検討する専門家会議の実施

【担当部局】(担当事業)
(担当室) (連絡先)
H21当初予算額
(H20年度2月補正含みベース)

【健康福祉部】①③⑥⑩⑫⑬
健康危機管理室 224-2339
予算額 一千円(464,753千円)

【防災危機管理部】⑦
危機管理総務室 224-2734
予算額 一千円(8,800千円)

【農水商工部】⑤
農水産物安全室 224-2544
予算額 一千円(2,637千円)

【教育委員会】②④
当初予算主要事業 12頁
教育総務室 224-3301
予算額 一千円(3,670千円)

【警察本部】⑨
警備部警備第二課 222-0110
予算額 454千円(9,404千円)

【病院事業庁】⑧⑪
県立病院経営室 224-2350
予算額 7,965千円(7,965千円)



(一部新)

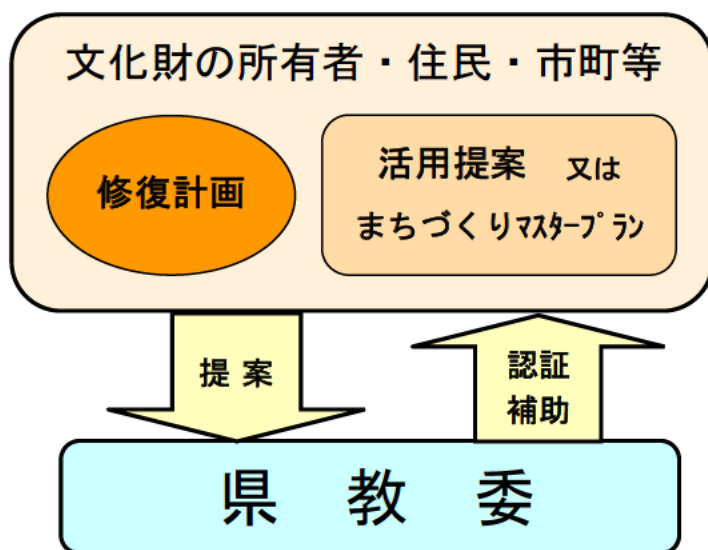
美し国の文化財活用

当初予算主要事業 教育委員会 15頁
社会教育・文化財保護室(224-2999)
【予算額 合計76,212千円】

活かそう美し国の文化財事業

【予算額 73,880千円】

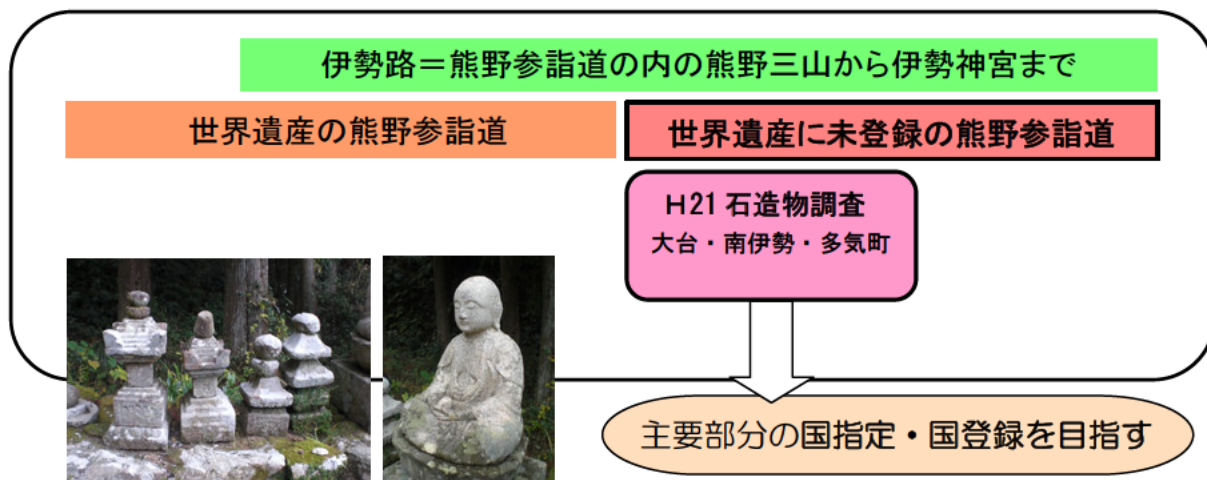
文化財の活用事業やマスタープランの策定と修復を対にして補助・支援をすることにより、文化財を活かした人づくり・まちづくりを目指します。



(新)伊勢路を結ぶ石造物調査事業

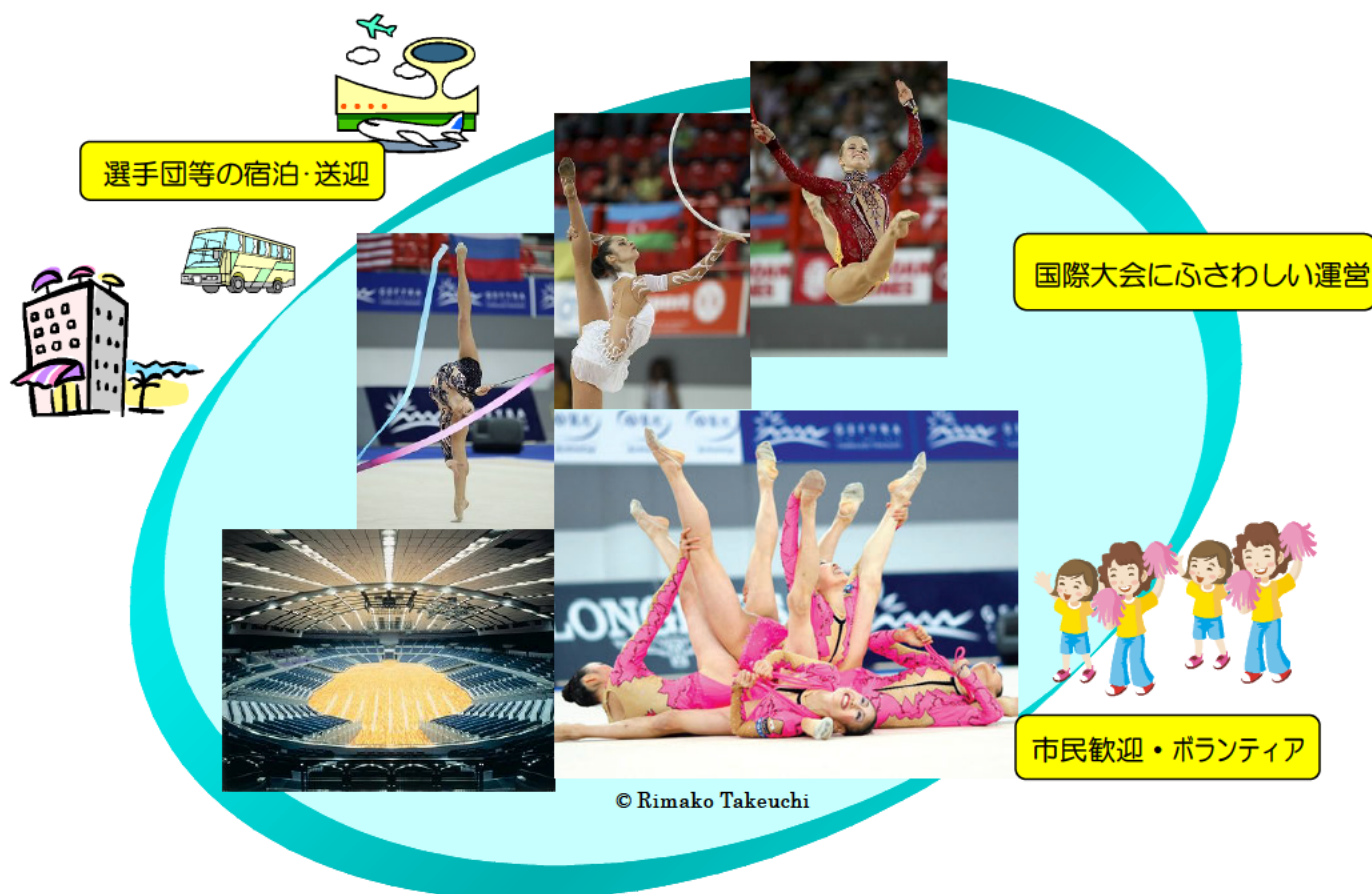
【予算額 2,332千円】

熊野古道伊勢路のうち、世界遺産未登録部分の街道沿線の石造物調査を行い、守り伝えていくことで、登録部分と未登録部分を一体のものとして結び、地域の歴史的資産としての価値を高めていきます。



世界新体操選手権大会開催事業

当初予算主要事業 教育委員会 16頁
世界新体操選手権準備室(0596-27-5155)
【予算額526,155千円】



2009年第29回世界新体操選手権三重大会

主催：国際体操連盟（FIG）
主管：財団法人日本体操協会・三重県・三重県体操協会
大会期間：平成21年9月8日（火）～9月13日（日）
（開会式8日、競技9日～13日、閉会式13日）
会場：三重県営サンアリーナ（伊勢市）
競技内容：個人選手権（ロープ、フープ、ボール、リボン）
団体選手権（フープ5、ロープ2+リボン3）
大会規模：約50の国と地域、選手・役員

llie

29th Rhythmic Gymnastics
World Championships
2009 in Mie (JPN)

世界新体操選手権の開催を通じ、文化的・経済的な郷土の発展につなげていくとともに、夢と感動を分かち合い、県民が心豊かに暮らせる地域づくりに貢献することを目的に開催します。

参加選手が最高のコンディションで競技に臨めるよう、円滑に競技運営ができる組織体制や選手等の宿泊・送迎などの受入体制を整備するとともに、市町、関係団体、ボランティア等と連携して大会を開催し、三重県及び伊勢志摩地域を広く内外にPRします。